

日本共産党

天王台後援会ニュース



〈天王台、東我孫子、高野山、泉、下ヶ戸、岡発戸、柴崎台、柴崎、青山台、青山、南青山地域〉〈部内資料〉

住所 270-1138 我孫子市下ヶ戸1825-19-103 電話 7184-2670, 発行責任者 中村良雄

参院選 自公政権衆議院に続き

参院でも過半数割れ

共産党 国民と一緒に政策実現にアクションを起こしていきます

自民党幹部は嘆く、「岩盤支持層まで離れた結果だ」。参院選は昨年の衆議院選挙に続く与党が少数に追い込まれました。共産党と「赤旗」の自公悪政への鋭い批判が自公の大幅減少に貢献しました。自民・公明両党は議席を大幅に減らし、非改選と合わせて122議席となり、過半数を下回りました。自民党が政権について衆参ともに過半数を割るのは、1955年結党以来初めてです。

日本共産党は比例で2議席と、東京選挙区で吉良よし子さんの1議席計3議席で、改選前から4議席減らした残念な結果となりました。

共産党は自民党政治に正面から対決し、責任ある対案を示して闘いました。市民と野党の共闘も新たな発展を目指して全国32ある1人区で、17選挙区で候補者を一本化し、12選挙区で勝利しました。沖縄選挙区でも野党が勝利しました。

一方で、自民党の補完勢力(維新の会、国民民主党)や外国人への差別を売り物にする排外主義(日本人ファースト)・極右政党である参政党が伸長しました。

危険な潮流・極右の参政党へ

鋭い批判の監視を向けましょう。

参政党の危険な主張・排外主義は、自分達のグループ以外の人々を排除する考え方です。特定の国籍・宗教・民族を受け入れない主張は、社会の分断や対立を深める原因となります。人権侵害にも繋がる可能性があります。

参政党へは大手新聞・テレビ等マスメディアがその偏見の主張を大きく報道して助長しました。さらにSNSを操作・利用してデマ・フェイクニュースを拡散して若年層の支持を得ました。

参政や与党自民党の補完勢力である国民民主党が伸長した背景には、国民、特に若年層の、生活苦や格差拡大を生み出した自民党政治に対する不平・不満・将来への不安や怒

りがあります。生活苦と社会の閉塞感に苛まれてきた若者・就職氷河期世代の心に、極右排外主義の主張が刺さりました。これは自民・公明の地盤を崩す一方で、前への逆流にもなり得る危険な選択でもあります。

くらし、医療・介護、農業の危機を打開し、今回のトランプの関税押しつけや米国言いなりの大軍拡に歯止めをかける取り組みが大切です。同時にデマに騙されず、まともな判断能力を持った有権者を育てる運動、日常的な情報戦も新たな議題となるでしょう。

(天王台後援会会長 中村良雄)

戦後80年 伝えていきたい平和への思い

シリーズ ①

母の言葉・・・「人の善意で生き延びたことを忘れずに」

昭和20年3月末、母は乳飲み子のわたしと4歳の兄、義母を連れて富山県高岡市の実家に疎開しました。3月10日の東京大空襲で焼け出され逃げてきた悲惨な姿の人々を見て、東京にいては危険だと満員の夜行列車に乗り込んだのです。ぎゅうぎゅう詰めの上に後から乗ってきた人に押されて「赤ん坊がいます。押さないで」と悲鳴を上げた時「赤ん坊の一人や二人、俺なんか、家族みんな死んだんだ」と叫んだ男の人に「どうぞ中に入ってください」と母はデッキに立ったそうです。しばらくして、その人が「赤ん坊が風邪ひくから中に入らせろ」とほかの人に声をかけて母を奥に入れ、しかも、泣

く私に「おむつをとりかえてやれ」とみんなに手をださせて、私のおむつをとり替えてくれたのです。立ちっぱなしの満員列車の中、善意の人に支えられわたしたちは無事に母の実家に着きました。疎開してしばらくしてから、父が東京駅のホームの下にもぐって命が助かったこと、東京の家は焼夷弾で焼かれたことが知らされ、祖母は、帰る家がなくなつたと泣いたそうです。

〈天王台 中川美保子〉



義姉の哀しさを知って…戦争さえなかったら

夫が戦死したために、復員した夫の弟とむりやり結婚させられた義姉が亡くなった時、遺品の中に、誰にも見つからないように、先夫の手紙がしまっていました。義姉と結婚した3男の兄には、出兵する前に結婚を約束した人が居たのですが、長兄の死によって、跡取りにされたため兄のこどもと兄嫁を引き受けることになったのです。復員したとのうわさを聞いて親子であいさつに来てくれた許嫁は相

手がすでに義姉と結婚したことを知って泣く泣く帰っていきました。

戦争によって、兄も義姉も二人とも自分の気持ちに蓋をして人生を終わらせたことは本当に気の毒としか言えません。こんな思いをだれにも2度とさせないために、平和憲法をしっかりと守っていかなければと思います。

（柴崎 老女の思い）

父 恋し

父は 昭和18年南方の激戦地で非業の戦死をしました。母とは私が3か月頃離婚しています。父は、私を他家に養子に出してほしいと常に言っていたそうですが祖父母はしっかり大切に育ててくれ

ました。それでも私の心のどこかには深く理解できない闇が潜んでいる様に思われて何か淋しくなりません。戦争は2度と繰り返してはならず戦争には絶対に反対です。

- ・顔が見たい声が聞きたい「お父さん」呼び続けて70有余年
- ・戦後より我にはられしレッテルは「戦没者遺児」哀れで悔し
- ・戦争で家は焼かれて息子は戦死した計りしれない祖父母の思い
- ・「英霊」と白木の箱に2文字が石ころよりはましだと祖母は
- ・祖父母と我を祖国に残し激戦地で果てたる父の魂おもう

（林 万佐子）

被爆80年 日本政府こそ核廃絶の先頭に！

被爆者や市民の願いは被爆国日本が核兵器禁止条約の締約国になること
国際社会では条約の締約国は73
署名国も国連加盟国の半数に迫る94

7月23日 日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）、原水爆禁止日本協議会（日本原水協）、原水爆禁止日本国民会議（原水禁）が、初めて共同アピールを発表しました。

このアピールで、日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求めています。体験者が高齢化している今、被爆体験を風化させない取り組みが求められています。

「太田川—ヒロシマの焰を映して」 著者 黒木庄平

原爆が投下されたその日、広島で被爆した黒木庄平氏の著作「太田川」を紹介します。

著者は明治 43 年生まれ、34 歳の時に被爆しました。本を書こうと思ったのは丸木衣里、俊夫妻の「原爆の図」と出会った時と書いています。

原爆が投下されたその日、彼は「助けてください」「水をください」の声を何度も聞きながらも何もできませんでした。自分自身も放射能にやられていたので逃げることもできなかったのです。丸木夫妻の「原爆の図」の絵の中の一人として、生き延びてきたことの責任を果たさねばという思いから、本の執筆にとりかかり、92歳の時、完成させました。

在庫がありますので、ぜひお読みください。貸し出しもします。

黒木庄平の息子の妻 黒木宏子

04-7182-3762



※ 著者は、生前 我孫子市の「我孫子市原爆被爆者の会」の一員として県下の高校などで、広島の体験を伝える活動を行っていました。

※ 表紙の絵は「原爆の図」（丸木衣里、俊 作）

国保保険証 期限切れでも受診できます。 来年3月末まで

保険証の有効期限が切れても捨てないでください。7月末で有効期限を迎えた国保加入者について、厚労省は6月27日に有効期限が切れた保険証でも医療機関を受診できるよう事務連絡を出し、被保険者番号などにより資格情報の照合を行うことになりました。

第17回あびこ平和フェスティバル開催

講演・映画上映・うたごえ・DVD 上映・文化コーナー・各種展示

日時 **8月23日(土) 9:00~19:00**

場所 **我孫子市民プラザ・ホール** (入場は無料)

(あびこショッピングプラザ3階)

主な日程 午前9時 会場開会 平和関連資料展示 9時から19時まで

10時30分 原水爆禁止世界大会参加者の報告

11時 講演「ノーベル平和賞、そして核兵器廃絶へ」

講師 **土田弥生さん**

(日本原水協事務局次長)



13時 みんなでうたごえ

13時30分 講演「戦後80年、いま新たな戦前に!？」

講師 **千坂 純さん**

(日本平和委員会事務局長)



15時30分 映画上映

19時 閉場

主催 あびこ平和フェスティバル実行委員会 代表 中村良雄 090-3964-3111

後援 我孫子市 我孫子市教育委員会

【参議院選挙の結果を見て】

投票者 後悔するはいつの日か

参政党に「時流」の一票

参院選 終わるの待つて 発表す

合意の「お土産」知るのが怖い

脅されて 舐められまくって 合意して

ウィンウィンの関係いずこ

被団協 原水協に 原水禁

三者の共同 草の根動かす

【青山台の農夫】